研究成果報告書 科学研究費助成事業

今和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号: 34310

研究種目: 基盤研究(C)(一般)

研究期間: 2021~2023 課題番号: 21K01531

研究課題名(和文)学校外教育格差の理論的・実証的研究

研究課題名(英文)Normative and Positive Research of the Inequality of Opportunity for Shadow

研究代表者

田中 宏樹 (TANAKA, Hiroki)

同志社大学・政策学部・教授

研究者番号:40388046

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3.200,000円

研究成果の概要(和文):学校外教育を通じた世代間所得移転の厚生への影響を明示的に扱った動学モデルを構築し、学校教育と学校外教育とが代替・補完いずれの関係にあるかが、進路分化、人的資本蓄積に与える影響に違いがあることを理論的に解明した。子どもが属する世帯属性を考慮しうる「家計調査」および「全国消費実態調査」の個票データを用いて、学校外教育需要の格差が、子どもの数別、教育段階別、設置主体別、学年段階別に異なることを実証的に明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義 本研究が取り組んだ理論実証分析は、学校外教育を起点とする教育格差の実態およびその厚生評価を、従前より 体系的かつ精緻に行うことを可能にするとともに、長期継続的な個票データを用いることで、幼児や高校生への 授業料無償化など、教育分野において進む自己負担軽減に対する政策的潮流への客観的評価に資する実証的な知 日本提供しるように、学術的独自性と社会的音差を有するものと解せられる。 見を提供しうる点に、学術的独自性と社会的意義を有するものと解せられる。

研究成果の概要(英文):We developed a dynamic model that explicitly deals with the impact of intergenerational income transfers through private supplementary education on welfare, and theoretically clarified that whether schooling and private tutoring are substitutes or complements has different effects on educational stratification and human capital accumulation. Using data from the Family Income and Expenditure Survey and the National Survey of Family Income and Expenditure, which allow us to take into account the attributes of the households to which children belong, we empirically show that differences in the demand for private supplementary education differ by the number of children, educational stage, provider, and grade level of children.

研究分野: 公共経済学

キーワード: 学校外教育 有償の教育機会 教育達成 世帯の社会経済的地位 教育機会の格差 媒介分析 FGT指標 Kakwani係数

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等に ついては、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1.研究開始当初の背景

学校外教育は、有償サービスを原則とするため、Lareau(2003)がいう SES による養育ロジックの違い(高い階層では「意図的養育」、低い階層では「放任的養育」が支配的)が生じやすいことが予想される。従来の学校外教育研究では、SES の中でも親の規範意識や学歴といった文化資本や、親や地域の学校支援といった社会関係資本の影響を重く捉える研究が主流であり、世帯の経済状況(経済資本)の影響に焦点をあてる研究の蓄積は乏しかった。研究代表者は、所得格差と学校外教育の利用や進路分化との関わりについて、マクロデータを用いた定性かつ定量分析を行い、所得水準に左右されやすい学校外教育の利用実態とその帰結としての教育格差の一旦を明らかにしてきたが、家計毎に異なる属性を考慮したマイクロデータに基づく理論実証分析によって、学校外教育を起点とする教育格差の実態およびその厚生評価を、より体系的かつ精緻に行うことの必要性を認識するに至った。

2.研究の目的

本研究の目的は、子どもが属する世帯属性によって変わりうる学校外教育需要を通じた世代間所得移転の実態およびその社会厚生への影響を、定性的・定量的に検証することにある。学校の外で私費を媒介として行われる学校外教育は、有償ゆえにその需要が、子どもが属する世帯の社会経済的地位(Socio Economic Status:以下 SES)の影響を如実に受けやすく、教育機会の格差を深刻化させる可能性が高い。ただ、学校教育と学校外教育とを明示的に分けた理論分析は内外ともに乏しく、学校外教育の機会格差に着目した実証分析も、パネルデータ等を用いた長期継続的な実態把握を行うものは数限られていた。そこで、本研究では、SESの中でも学校外教育需要に最も影響すると予想される世帯所得に着目し、世帯所得の格差により学校外教育機会および教育達成の格差がどのように生じうるのかを、個人の属性を考慮しうる長期の個票データを用いて、理論実証両面から解明する。

3.研究の方法

子どもが属する世帯属性によって変わりうる学校外教育の需要の実態を、目的外使用申請により入手する全国消費実態調査、家計調査および日本子どもパネル調査(JCPS)の長期個票データを用いて検証するとともに、学校外教育を通じた世代間所得移転の影響を明示的に扱った動学モデルを構築することで、学校外教育機会の格差がもたらす社会厚生上の影響を分析する。教育社会学分野における従前の研究では蓄積の乏しかった世帯所得の格差に着目し、1980年代後半からの長期個票データを用いて、教育政策(学校週休二日制の導入等)家計補助政策(幼児教育や高校の授業料無償化等)その他育児世帯への再分配政策(税制、児童手当等)等が、学校外教育需要の変化を通じて社会厚生に与える影響を考察する。

4.研究成果

(1)教育機会・達成における不平等生成要因としての学校外教育に関する文献分析学校外教育が教育機会および教育達成における不平等生成の要因になる得るかをテーマとする内外の文献レビューを行い、現状、学校外教育の利用および学校外教育の効果を射程とする理論実証分析の蓄積は乏しく、学校外教育が国際的な mass schooling の潮流となっているかは学術的検証の途上にあることを指摘した。国際比較に足る検証結果を導く前段として、学校外教育の普及が見られる国を対象に、子どもの数、教育段階、学校種、学年といった子どもの属性を把握可能な個票データを用いて、長期の学校外教育利用のトレンドを所得階層別に検証する精緻かつ地道な分析を行うことで、学校外教育利用の実態と今後の趨勢、それが子どもの教育達成に及ぼす影響等を検証することの学術的価値について論じた。

(2) 学校外教育需要の水準決定と社会厚生への影響に関する理論分析

家計の学校外教育需要を明示的に扱った動学モデルを構築し、学校外教育を通じた世代間所得移転への社会厚生上の影響について分析を行った。理論分析の結果、子どもの学習能力に関する不確実性があるもとでは、家計の学校外教育需要が社会厚生を最大化する水準より過小となりうること、学校教育と学校外教育とが代替(補完)関係にある場合には、所得水準の低い家計から高い家計にかけて、公的学校教育のみ(私的学校教育+学校外教育)、公的学校教育+学校外教育、公的学校教育+学校外教育、私的学校教育+学校外教育の順で教育需要を選択する可能性があることを提示した。学校外教育需要が人的資本蓄積の格差を生じさせうるメカニズムを解明し、また、学校教育と学校外教育との関係如何によって、家計の教育需要の構成に変化が生じうることを示した点において、学校外教育研究への新たな知見の提供に寄与したと結論づけられる。

(3)学校外教育の機会格差の実態に関する実証分析

『家計調査』の 2001 年 1 月から 2021 年 10 月までの月次の個票データをもとに、子どもが属する世帯間の経済格差と子どもに提供される教育機会の格差の時系列的な変化を、世帯の等価消

費支出のジニ係数と教育支出の集中度係数に基づくカクワニ係数を計測することで分析した。計測の結果、児童・生徒間の教育機会格差は彼らが属する世帯間の経済格差よりも大きく、1988年以降、教育機会の均等度は傾向的に低下していること、中学校と高等学校の低学年において機会均等度の低下傾向が大きいこと、2000年前後を境として、教育機会の均等度を低下させた要因が、経済格差の拡大から教育機会の格差拡大へと変化していること、子ども1人世帯や2人世帯における教育機会の均等度が近年において低下していることの4点が明らかとなった。教育への家計負担軽減を目指す政策的潮流に対し、ターゲット効率性の観点から学術的示唆を提供し得たと結論づけられる。

(4) 学校外教育の機会格差が貧困に与える影響に関する実証分析

『全国消費実態調査』の調査票個票データを用いて、小学校、中学校、高等学校に在学する子どもの貧困率を、等価消費支出と学校外教育支出の両面から、1999 年から 2014 年の 15 年間、4 回の調査に基づき、貧困率と2乗貧困ギャップ率を用いて計測した。計測の結果、学校外教育支出の2乗貧困ギャップ率は、格差効果によって 2004 年以降上昇していること、等価消費支出と学校外教育支出を総合した多次元の貧困指標は、計測期間を通じて概ね上昇傾向にあり、計測の最終年である 2014 年に最も高い値を示していることの2点が明らかとなった。教育への家計負担軽減を目指す政策的潮流に対し、ターゲット効率性の観点から学術的示唆を提供し得たと結論づけられる。

(5) 学校外教育の機会格差の改善に向けた所得再分配政策の効果に関する実証分析

『家計調査』の月次の個票データを用い、租税による所得再分配効果が教育支出、特に補習教育費の均等度に与えた経年的な影響を、ジニ係数、集中度係数、カクワニ係数、レイノルズ・シモレンスキー係数を計測することで分析した。分析の結果、租税による所得再分配効果が課税後所得をベースに計測した補習教育費のカクワニ係数に与える影響は小さく、カクワニ係数の変動は補習教育費の均等度(集中度係数)の変動にほぼ起因するものであること、レイノルズ・シモレンスキー係数が課税後所得ベースの補習教育費のカクワニ係数に与える影響は軽微であり、租税による所得再分配効果が課税後所得ベースの補習教育費のカクワニ係数を引き下げる効果は、限定的であることの2点が明らかとなった。教育への家計負担軽減を目指す政策的潮流に対し、ターゲット効率性の観点から学術的示唆を提供し得たと結論づけられる。

(6)世帯属性別の学校外教育の需要特性と学校外教育の教育達成への影響に関する実証分析『全国消費実態調査』の1984~2014年までの調査票個票データを用いて、小学生、中学生、または高校生の子どものいる世帯の教育費支出を対象に、教育費支出のパターンが世帯主の年齢(Age)、調査年 (Period)、世帯主の生まれた世代 (Cohort) によって変化しうるかを、Age-Period-Cohort Analysisにより検証した。分析の結果、年齢効果については、世帯主の年齢が45-49歳をピークにして、総教育費支出や補習教育費が高まる傾向にあること、コホート効果については、1955-59年生まれのコホートで、補習教育費支出が増える傾向が確認された。子ども一人一人に対して行われた学校外教育支出とその子どもの学力を同時に把握することができる「日本子どもパネル調査」の2010~2016年の個票データを用いて、小中学校段階の子どもの学力形成に等価世帯収入や父母の学歴が与える直接的な影響と間接的な影響を、Casal Mediation Analysisにより検証した。分析の結果、等価世帯収入が学力に与える関節効果は、数学で約6.8%、国語で約9.4%と、等価世帯収入の直接効果に比して相対的に小さいものの、子どもの学年、世帯の所得水準によって間接効果は一様でないことが示された。教育への家計負担軽減を目指す政策的潮流に対し、ターゲット効率性の観点から対象とすべき家計の属性について、学術的示唆を提供し得たと結論づけられる。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件(うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 12件)

【雑誌論文】 計12件(うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 12件)	
1 . 著者名 中村亮介・田中宏樹・金田陸幸	4. 巻 2022 007
2 . 論文標題 初等教育段階における学校外教育の媒介効果についての実証分析	5 . 発行年 2023年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
慶應義塾大学パネル設計・解析センターDP2022 007	1-13
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
1 . 著者名	4 . 巻
中村和之・金田陸幸・田中宏樹	350
2 . 論文標題	5.発行年
学校外教育機会の格差 - Kakwani 係数を用いた有償の学習機会の不平等度の計測 -	2023年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
富山大学経済学部Working Paper 350	1-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	 査読の有無
10.15099/00022163	無無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
1 . 著者名	4 . 巻
田中宏樹・安岡匡也	245
2.論文標題	5 . 発行年
Demand for Education Investment in A Model with Uncertainty	2023年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
Discussion Paper Series 245, School of Economics, Kwansei Gakuin University	1-8
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	 査読の有無
なし	無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
カープラブラビスとしている(また、この子だてのる)	
1.著者名	4 . 巻
Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka	232
2.論文標題	5.発行年
Public and Private Educational Expenditure and Human Capital Accumulation	2021年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Discussion Paper Series 232, School of Economics, Kwansei Gakuin University	1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	 査読の有無
なし	無
オープンアクセス オープンアクセストしている(また、その子字である)	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-

1 . 著者名 Kazuyuki Nakamura	4.巻 346
2 . 論文標題 On the Welfare Dominance Criteria Using Equivalence Scales for Different Household Sizes	5 . 発行年 2022年
3.雑誌名 Working Paper 346, School of Economics, University of Toyama	6.最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15099/00021602	査読の有無無無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
	T . W
1 . 著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka	4.巻 43
2 . 論文標題 Demand for Education Investment in A Model with Uncertainty	5 . 発行年 2023年
3.雑誌名 Economics Bulletin	6.最初と最後の頁 1780-1786
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無無無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
1 . 著者名 中村亮介 田中宏樹 金田陸幸	4.巻 400
2 . 論文標題 世帯主のコホートに着目した教育費支出についての考察-全国消費実態調査を用いた実証分析-	5 . 発行年 2024年
3.雑誌名 中央大学経済研究所 Discussion Paper	6.最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無無無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
1.著者名中村和之 金田陸幸 田中宏樹	4 . 巻 364
2. 論文標題 貧困が学校外教育機会に及ぼす影響に関する実証分析-FGT指標を用いた貧困率の計測-	5 . 発行年 2024年
3.雑誌名 富山大学経済学部Working Paper	6.最初と最後の頁 1-36
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15099/0002000200	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著

1 . 著名名 中村和之 金田陸幸 田中宏樹 2 . 第文標語 大部川殿と地方園でみた学校外教育機会の質団- FGT指標を用いた地域別質団事の計測 2024年 2024年 2024年 3 . 雑念名		
中村利之 金田隆幸 田中宏樹 363 2. 論文程題 大都市海と地方層でみた学校外教育機会の貧困・FOT指標を用いた地域別貧困率の計測 5. 飛行年 2024年 3. 補証を 富山大学経済学部のcrking Paper 6. 最初と最後の頁 1.27 3. 補証を 金田原本 田中宏樹 中村和之 面際共著 1. 著書名 金田原本 田中宏樹 中村和之 4. 巻 3024年 2. 論文整調 指数による所得再分配効果が学校外教育機会の均等度に与える影響・「家計調査」個菓データを用いた実証 が成立を 3. 補証を 3. 補証を 4. 元ブンアクセス 5. 飛行年 2024年 3. 確認を 6. 最初と最後の頁 1.26 6. 最初と最後の頁 1.26 1. 素書名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 4. 巻 2023年 2. 論文整題 School Choice and Private Tutoring with Endogenous Fertility 5. 飛行年 2023年 3. 補証を Kanasei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 6. 最初と最後の頁 1.16 3. 機能を Kontool Choice and Private Tutoring 5. 飛行年 2023年 4. 巻 25 1. 著書名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 4. 巻 25 2. 論文理題 School Choice and Private Tutoring 5. 飛行年 2023年 3. 補証名 Kontool Choice and Private Tutoring 5. 飛行年 2023年 4. 巻 25 25 3. 補証名 Kontool Choice and Private Tutoring 5. 発行年 2023年 4. 巻 25 25 3. 構設名 Manasei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 6. 最初と最後の頁 1.12 1. 著書名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2. 養行年 2023年 2. 施文理理 Apper Series 6. 最初と最初と最初と表の頁 2023年 3. 補証名	1,著者名	4 . 巻
2. 論文程題 大都市圏と地方面でみた学校外教育機会の資圏・FGT指標を用いた地域別質圏率の計測 3. 補話名		
大都市職と地方側でみた学校外教育機会の発展・FGT指標を用いた地域別美国率の計測 2024年 3. 組証を 信し、最初と監接の頁 1.27	中们和人 並四唑羊 四甲茲倒	JUJ
大都市職と地方側でみた学校外教育機会の発展・FGT指標を用いた地域別美国率の計測 2024年 3. 組証を 信し、最初と監接の頁 1.27		
大都市職と地方側でみた学校外教育機会の発展・FGT指標を用いた地域別美麗率の計測 2024年 3. 組証を 信し、表記の有無 信したいめいの2000198	2 論文標期	5 発行任
3. 輪談名		
国際共著	大都巾圏と地方圏でみた字校外教育機会の負困- FGT指標を用いた地域別負困率の計測	2024年
国際共著		
国際共著	2 株社夕	6 是知と是後の百
指数論文のDDI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無		
指数論文のDDI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無	富山大学経済学部Working Paper	1-27
### ### ### ### #####################		
### ### ### ### ####################		
### ### ### ### #####################		
### ### ### ### #####################	掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
1 - 著名名		
1 著者名 金田陸幸 田中宏樹 中村和之 2 . 論文標題 382	10.1509970002000198	₩
1 著者名 金田陸幸 田中宏樹 中村和之 2 . 論文標題 382		
1 著者名 金田陸幸 田中宏樹 中村和之 2 . 論文標題 382	オープンアクセス	国際共著
4 . 巻 362 全田陸幸 田中宏樹 中村和之 2 . 論文標題 招致による所得再分配効果が学校外教育機会の均等度に与える影響・「家計調査」個票データを用いた実証 2024年 2023年 2023		
金田陵幸 田中宏樹 中村利之 362 2 . 論文標題 相称による所得用分配効果が学校外教育機会の均等度に与える影響・「家計講査」個票データを用いた実証 分析・2024年 分析・2024年 分析・1・28 世紀後の頁 1・28 世紀後の頁 1・28 世紀後の頁 1・28 世紀後の頁 1・28 世紀後の頁 1・28 世紀後の頁 1・28 世紀 大きの子だのある) 国際共著 2024年 2024年 2024年 2024年 2024年 2024年 2020年 2020	オープジアクセスとしている(また、その予定である)	-
金田陵幸 田中宏樹 中村利之 362 2 . 論文標題 相称による所得用分配効果が学校外教育機会の均等度に与える影響・「家計講査」個票データを用いた実証 分析・2024年 分析・2024年 分析・1・28 世紀後の頁 1・28 世紀後の頁 1・28 世紀後の頁 1・28 世紀後の頁 1・28 世紀後の頁 1・28 世紀後の頁 1・28 世紀 大きの子だのある) 国際共著 2024年 2024年 2024年 2024年 2024年 2024年 2020年 2020		
金田陵幸 田中宏樹 中村利之 362 2 . 論文標題 相称による所得用分配効果が学校外教育機会の均等度に与える影響・「家計講査」個票データを用いた実証 分析・2024年 分析・2024年 分析・1・28 世紀後の頁 1・28 世紀後の頁 1・28 世紀後の頁 1・28 世紀後の頁 1・28 世紀後の頁 1・28 世紀後の頁 1・28 世紀 大きの子だのある) 国際共著 2024年 2024年 2024年 2024年 2024年 2024年 2020年 2020	1 520	4 *
2. 論文標題 租税による所得再分配効果が学校外教育機会の均等度に与える影響-「家計調査」個票データを用いた実証 力がた。 3. 雑誌名 富山大学経済学部/orking Paper 「お野論文の001(デジタルオブジェクト識別子) 10.15099/0002000199 1. 著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2. 論文標題 School Choice and Private Tutoring with Endogenous Fertility 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 1. 著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2. 論文標題 School Choice and Private Tutoring with Endogenous Fertility 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 1. 著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2. 論文標題 オープンアクセス 1. 著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2. 論文標題 School Choice and Private Tutoring 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 1. 著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2. 論文標題 School Choice and Private Tutoring 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 1. 著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2. 論文標題 School Choice and Private Tutoring 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 1. 程子 2023年 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 1. 2023年 3. 雑誌名 Masaya Yasuoka 2. 過数分標題 School Choice and Private Tutoring 3. 雑誌名 Masaya Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 1. 2023年 3. 雑誌名 Masaya Yasuoka 2. 過数分析題 Masaya Yasuoka 2. 過数分析題 Masaya Yasuoka 4. 巻 255 265 275 286 287 287 287 287 287 287 287		
2 ・論文標題 組称による所得再分配効果が学校外教育機会の均等度に与える影響・「家計調査」個票データを用いた実証 分析: 3 ・雑誌名 富山大学経済学部%orking Paper 「おりと最後の頁 1・26 「おりと最後の頁 1・16 「おりと最後の頁 1・17 「おりと最後の頁 1・17 「おりと最後の頁 1・17 「おりとは、「おりと最後の頁 1・17 「おりと最後の頁 1・17 「おいに、「おりと最後の頁 1・17 「おりと最後の頁 1・17 「おりと最近の表	金田陸幸 田中宏樹 中村和之	362
招税による所得再分配効果が学校外教育機会の均等度に与える影響・「家計調査」個票データを用いた実証分析: 3 . 雑誌名		
招税による所得再分配効果が学校外教育機会の均等度に与える影響・「家計調査」個票データを用いた実証分析: 3 . 雑誌名	2 . 論文標題	5 . 発行年
分析・ 3 ・ 陰誌名 富山大学経済学部Working Paper	和税による所得再分配効果が学校外教育機会の均等度に与える影響。「宏計組本・個要データを思いた宝証	
3 . 雑誌名 富山大学経済学部 orking Paper 1-26		ZUZ4 *+
3. 雑誌名	分析-	
富山大学経済学部Working Paper 1-26 掲載輸文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.15099/0002000199 童読の有無 無 オープンアクセス 国際共著 - 1.著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 4.巻 280 2.論文標題 School Choice and Private Tutoring with Endogenous Fertility 5.発行年 2023年 3.雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 6.最初と最後の頁 1-16 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセスとしている(また、その予定である) 重読の有無 無 255 1.著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 4.巻 255 2.論文標題 School Choice and Private Tutoring 5.発行年 2023年 3.雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 6.最初と最後の頁 1-12 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし 無 無 無 2 オープンアクセス 重読の有無 無 2 計の有無 無 無 2 計の有無 無 1 ま カープンアクセス	3. 雑誌名	6 最初と最後の百
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 1. 著名名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2. 論文標題 School Choice and Private Tutoring with Endogenous Fertility 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series は オーブンアクセスとしている(また、その予定である) は 著名名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2. 論文標題 School Choice and Private Tutoring with Endogenous Fertility 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series は オープンアクセス カープンアクセスとしている(また、その予定である) は 著名名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2. 論文標題 School Choice and Private Tutoring 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 6. 最初と最後の頁 1. 著名名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 2. 論文標題 School Choice and Private Tutoring 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 4. 巻 255 2. 論文行年 2023年 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 第一次の方法		
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15099/0002000199 無 無	富山大字経済字部Working Paper	1-26
### オープンアクセス 国際共著 日本 「日本 「日本 「日本 「日本 「日本 「日本 「日本 「日本 「日本	• '	
### オープンアクセス		
### オープンアクセス		
### オープンアクセス	掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2 . 論文標題 School Choice and Private Tutoring with Endogenous Fertility 3 . 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 4 . 巻 200 5 . 発行年 2023年 3 . 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 4 . 最初と最後の頁 1-16 据載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 1 . 著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 4 . 巻 255 5 . 発行年 2023年 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 4 . 巻 255 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 1-12 据載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) な .		
### オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2. 論文標題 School Choice and Private Tutoring with Endogenous Fertility 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series ### オープンアクセス 1. 著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2. 論文標題 オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2. 論文標題 School Choice and Private Tutoring 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 4. 巻 255 2. 論文標題 School Choice and Private Tutoring 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series ### ### ### ### ### ### ### ### ### #	10.1509970002000199	////
### オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2. 論文標題 School Choice and Private Tutoring with Endogenous Fertility 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series ### オープンアクセス 1. 著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2. 論文標題 オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2. 論文標題 School Choice and Private Tutoring 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series ### 2023年 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series ### 2023年 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series ### 2023年 ### 2023年 ### 2023年 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series ### 2023年 ##		
### オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2. 論文標題 School Choice and Private Tutoring with Endogenous Fertility 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series ### オープンアクセス 1. 著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2. 論文標題 オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2. 論文標題 School Choice and Private Tutoring 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series ### 2023年 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series ### 2023年 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series ### 2023年 ### 2023年 ### 2023年 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series ### 2023年 ##	オープンアクセス	国際共著
1 . 著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2 . 論文標題 School Choice and Private Tutoring with Endogenous Fertility 3 . 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series (6 . 最初と最後の頁 1-16 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オーブンアクセス オーブンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2 . 論文標題 School Choice and Private Tutoring 3 . 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series (6 . 最初と最後の頁 1-12 4 . 巻 255 2 . 論文標題 School Choice and Private Tutoring 3 . 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし カーブンアクセス 国際共著		
Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2. 論文標題 School Choice and Private Tutoring with Endogenous Fertility 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス 1. 著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2. 論文標題 School Choice and Private Tutoring 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 1. 著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2. 論文標題 School Choice and Private Tutoring 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 月載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス 国際共著 本ープンアクセス 国際共著	オーノファソセスとしている(また、その予定である)	-
Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2. 論文標題 School Choice and Private Tutoring with Endogenous Fertility 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series [掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス 1. 著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2. 論文標題 School Choice and Private Tutoring 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series [5. 発行年 2023年 4. 巻 255 2. 論文標題 School Choice and Private Tutoring 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series [6. 最初と最後の頁 1-12 [7] 表述の有無 数し 第本 2000 日 第 2000 日 20		
Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2. 論文標題 School Choice and Private Tutoring with Endogenous Fertility 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス 1. 著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2. 論文標題 School Choice and Private Tutoring 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 1. 著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2. 論文標題 School Choice and Private Tutoring 3. 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 月載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス 国際共著 本ープンアクセス 国際共著	1	4 *
2 . 論文標題 School Choice and Private Tutoring with Endogenous Fertility 2023年 2023年 3 . 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 1-16		
2 . 論文標題 School Choice and Private Tutoring with Endogenous Fertility 2023年 2023年 2023年 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁 1-16 指載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 # オープンアクセス 1 . 著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2 . 論文標題 School Choice and Private Tutoring 2	Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka	260
School Choice and Private Tutoring with Endogenous Fertility 2023年 3.雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 1-16 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし		
School Choice and Private Tutoring with Endogenous Fertility 2023年 3.雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 1-16 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし		
3.雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 1.著書名 Hi roki Tanaka Masaya Yasuoka 3.雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 6.最初と最後の頁 1.1. 著書名 4.巻 255 5.発行年 2023年 3.雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 6.最初と最後の頁 1.1.2 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし カーブンアクセス 国際共著	2 . 論文標題	5.発行年
3.雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 4.巻 言読の有無 無 オーブンアクセス コープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 Hi roki Tanaka Masaya Yasuoka 2.論文標題 School Choice and Private Tutoring 3.雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 4.巻 2023年 3.雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 第載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし カーブンアクセス 国際共著	School Choice and Private Tutoring with Endogenous Fertility	2023年
Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 1-16 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	ochool onotes and trivate ratoring with Endogenous Fertifity	2025—
Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 1-16 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)		
Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 1-16 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	3、雑誌名	6 最初と最後の百
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス 1 . 著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2 . 論文標題 School Choice and Private Tutoring 3 . 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 本ープンアクセス 国際共著	** *** * *	
無 カープンアクセス 国際共著 カープンアクセスとしている(また、その予定である) - 1.著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2. 論文標題 School Choice and Private Tutoring 5.発行年 2023年 3.雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 6.最初と最後の頁 1-12	kwansel Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series	1-16
無 カープンアクセス 国際共著 カープンアクセスとしている(また、その予定である) - 1.著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 256 2.論文標題 5.発行年 2023年 3.雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 6.最初と最後の頁 1-12 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 重読の有無 無 国際共著		
無 カープンアクセス 国際共著 カープンアクセスとしている(また、その予定である) - 1.著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2. 論文標題 5.発行年 2023年 3.雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 6.最初と最後の頁 1-12 電読の有無 無 オープンアクセス 国際共著		
無 カープンアクセス 国際共著 カープンアクセスとしている(また、その予定である) - 1.著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2. 論文標題 5.発行年 2023年 3.雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 6.最初と最後の頁 1-12 電読の有無 無 オープンアクセス 国際共著		* * * * * #
オープンアクセス 1 . 著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2 . 論文標題 School Choice and Private Tutoring 3 . 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series [根載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし [本] [本] [本] [本] [本] [本] [本] [本	掲載舗文のDOI(テシタルオフシェクト識別子)	
オープンアクセス 国際共著 オープンアクセスとしている(また、その予定である) - 1.著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 255	な ,	無
コ・著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 4 . 巻 255 2 . 論文標題 School Choice and Private Tutoring 5 . 発行年 2023年 3 . 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 6 . 最初と最後の頁 1-12 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし		WZ
コ・著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 4 . 巻 255 2 . 論文標題 School Choice and Private Tutoring 5 . 発行年 2023年 3 . 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 6 . 最初と最後の頁 1-12 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし		
コ・著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 4 . 巻 255 2 . 論文標題 School Choice and Private Tutoring 5 . 発行年 2023年 3 . 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 6 . 最初と最後の頁 1-12 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	オーブンアクセス	国際共著
1 . 著者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 2 . 論文標題 School Choice and Private Tutoring 3 . 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス 国際共著		_
Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 255 2 . 論文標題 School Choice and Private Tutoring 5 . 発行年 2023年 3 . 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 6 . 最初と最後の頁 1-12 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし 無 オープンアクセス 国際共著	カーフノナノ でんこしている (また、この1/左にのる)	-
Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 255 2 . 論文標題 School Choice and Private Tutoring 5 . 発行年 2023年 3 . 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 6 . 最初と最後の頁 1-12 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし 本語の有無 はし オープンアクセス 国際共著		
Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka 255 2 . 論文標題 School Choice and Private Tutoring 5 . 発行年 2023年 3 . 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 6 . 最初と最後の頁 1-12 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし 本語の有無 はし オープンアクセス 国際共著	1	Λ
2.論文標題 School Choice and Private Tutoring5.発行年 2023年3.雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series6.最初と最後の頁 1-12掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著		_
2.論文標題 School Choice and Private Tutoring5.発行年 2023年3.雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series6.最初と最後の頁 1-12掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著	Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka	255
School Choice and Private Tutoring 2023年 3.雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 1-12 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし カープンアクセス 国際共著	•	
School Choice and Private Tutoring 2023年 3 . 雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 1-12 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス 国際共著	0 +A-1#0F	F 38/- F
School Choice and Private Tutoring 2023年 3.雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 1-12 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし カープンアクセス 国際共著	2 . 誦乂標題	5 . 発行年
3.雑誌名 Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス 国際共著		
Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series1-12掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著	Solidor Silvinos dila i i i valto i attori ing	_020 _
Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series1-12掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著		
Kwansei Gakuinn School of Economics Discussion Paper Series1-12掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著	3.雑誌名	6 . 最初と最後の頁
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無		
なし 無 オープンアクセス 国際共著	rwansel sakuinn school of Economics Discussion Paper Series	1-12
なし 無 オープンアクセス 国際共著		
なし 無 オープンアクセス 国際共著		
なし 無 オープンアクセス 国際共著	相割をみのDOL / デックリナイッシュ カー かのリフト	木芸の左仰
オープンアクセス 国際共著	均戦柵乂W∪∪ (ナングル4 ノンエグト祗別士)	直読の有無
オープンアクセス 国際共著	なし	無
		/W
	オーゴンフクセフ	I-11/07 ++ 35
	オープングラビス	国际共者 I
	オープンアグセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	

〔学会発表〕 計13件(うち招待講演 0件/うち国際学会 3件)
1 . 発表者名 中村亮介・田中宏樹・金田陸幸
1913元月 田中之間 亚山柱子
2 . 発表標題
初等教育段階における学校外教育の媒介効果についての実証分析
3.学会等名
日本経済学会2022年度春季大会
4.発表年
2022年
1.発表者名
中村和之・金田陸幸・田中宏樹
2.発表標題
マールス信題 学校外教育機会の格差 - Kakwani係数を用いた有償の学習機会の不平等度の計測 -
3.学会等名 日本財政学会第79回大会
4 . 発表年 2022年
1 . 発表者名 田中宏樹・安岡匡也
山中公園・女門住也
2 . 発表標題
Demand for Education Investment in A Model with Uncertainty
3.学会等名
日本経済学会2022年度秋季大会
4.発表年
2022年
1.発表者名
田中宏樹 安岡匡也
2.発表標題
Public and Private Educational Expenditure and Human Capital Accumulation
3.学会等名 日本財政学会第78回全国大会
4 . 発表年 2021年
LVL1T

1.発表者名 中村亮介 田中宏樹 金田陸幸
2.発表標題 初等教育段階における学校外教育の媒介効果についての実証分析
3.学会等名 日本経済学会西日本部会第106回大会
4 . 発表年 2021年
1 . 発表者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka
2.発表標題 Public and Private Educational Expenditure and Human Capital Accumulation
3.学会等名 Economic Society Winter School 2021(国際学会)
4 . 発表年 2021年
1.発表者名
田中宏樹 安岡匡也 金田陸幸
2.発表標題 Lower and Upper Secondary School Tracking and Income Inequality-Empirical Research of Mixed Public and Private Education Model-
3.学会等名 日本経済学会2024年度春季大会
4.発表年 2024年
1 . 発表者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka Takafumi Kaneda
2.発表標題 Lower and Upper Secondary School Tracking and Income Inequality-Empirical Research of Mixed Public and Private Education Model-

3 . 学会等名

4 . 発表年 2024年

The 9th LEER Conference (国際学会)

4 75 = 3.0
1.発表者名 Hiroki Tanaka Masaya Yasuoka
miroki ranaka madaya raduoka
2 . 発表標題 Sobool Chains and Private Tutoring
School Choice and Private Tutoring
3.学会等名
96th IAES Conference(国際学会)
4.発表年
2023年
1. 発表者名
中村和之 金田陸幸 田中宏樹
2 . 発表標題
貧困が学校外教育機会に及ぼす影響に関する実証分析-FGT 指標を用いた貧困率の計測
3.学会等名
日本財政学会第80回大会
4 . 発表年
2023年
1.発表者名
田中宏樹 安岡匡也
2.発表標題
School Choice and Private Tutoring with Endogenous Fertility
3.学会等名
- コーチスラロ - 日本経済学会2023年度秋季大会
4 . 発表年
2023年
1
1.発表者名 金田陸幸 田中宏樹 中村和之
亚四性十 四个名词 不打作人
2.発表標題 ・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
租税による所得再分配が学校外教育機会の格差に与える影響に関する実証分析
3.学会等名
日本地方財政学会第31回大会
4.発表年
2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6.研究組織

. 6	. 研究組織		
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
	中村 亮介	関東学院大学・経済学部・准教授	
研究分担者	(Nakamura Ryosuke)		
	(50759272)	(32704)	
	金田 陸幸	神戸学院大学・経済学部・准教授	
研究分担者	(Kaneda Takayuki)		
	(50782083)	(34407)	
	中村 和之	大阪経済法科大学・経済学部・教授	
研究分担者	(Nakamura Kazuyuki)		
	(60262490)	(13201)	
	安岡 匡也	関西学院大学・経済学部・教授	
研究分担者	(Yasuoka Masaya)		
	(90437434)	(34504)	
Ь	ı` '	I .	

7.科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------